

## 福島原子力事故からの復興に対する高校生による意見交換会

The Opinion Exchange Meeting by high school students on recovery from  
the Fukushima nuclear accident

\*嘉成 由紀子<sup>1</sup>, 植頭 康裕<sup>1</sup>

1. 日本原子力研究開発機構

東京電力福島第一原子力発電所の事故からの復興状況及び課題を福島県の高校生が自身の目で確かめ、自らの意見を述べることは重要である。日本原子力研究開発機構（JAEA）は、県内の高校生を対象に、施設見学を通して知見を広げるとともに、科学的アプローチによる問題解決能力の向上を目的に、放射線リスクコミュニケーション相談員支援センターの協力を得て「福島原子力事故からの復興に対する高校生による意見交換会」を開催した。

**キーワード：**人材育成，コミュニケーション，福島第一原子力発電所事故

### 1. 緒言

東日本大震災に伴う東京電力福島第一原子力発電所発電所の事故から、間もなく10年が経過する中で、福島県内の復興は少しずつ進んでいるが、一方で課題も多く残っている。また、廃炉や廃棄物の問題など長い時間を要するものもある。このような状況の中、将来の廃炉や廃棄物対策を担っていく世代である福島県の高校生が福島復興を自分の目で確かめ、どうして欲しいのか、何をしなければいけないこと等を考え、意見を述べることは大変重要なことである。

そこで、JAEAは、「福島原子力事故からの復興に対する高校生による意見交換会」を開催し、福島県内の高校生に施設見学と講義を通じて復興の現状と課題を理解し、意見交換する場を設けた。

本報では、意見交換会を通じて高校生が何を学び、どう考えたかを報告するとともに我々が高校生の発表を通じて考えていくべきことについて報告する。

### 2. 取り組み

本意見交換会は、施設見学と講義、全体討論とグループ討論で構成され、福島県内の4進学校から1,2年生19名と、サポート役として福島大学大学院の学生が3名参加した。

施設見学では、東京電力廃炉資料館、中間貯蔵工事情報センター、特定廃棄物埋立処分施設、リプルンふくしまに訪問し、福島原子力発電所事故の概要、中間貯蔵施設と特定廃棄物埋立処分施設の違い及び除去土壌等の保管や埋立処分の現状について理解を深めた。

全体討論では、事前に宿題として出された項目「自宅の隣に処分場ができたなら賛成か」、「今回の事故によって、身体に影響は出たか」、「今回の事故によって、自分の子孫に影響は出ると思うか」について各自意見を述べ、さらに「除去土壌と特定廃棄物の違い」、「放射線と健康影響」について意見交換が行われた。

グループ討論では、4つの班に分かれて「県外に住んでいる人に伝えたいこと」、「(3年後の自分を想定して)そのために何をしたいか」について議論したのち、「決意表明」を行い、施設見学や高校生同士の意見交換を踏まえた自らの考えを発表してもらった。

### 3. 結果・考察

全体討論及びグループ討論ともに、学年や放射線に関する知識量等の違いにより、様々な意見が述べられたが、最終的に「県外に向けて福島の現状を発信したい」、「正しい知識を身につけたい」という意見にたどり着いた。

本意見交換会に参加した高校生は、放射線や復興状況について学ぶ機会や情報を発信する場を求めている。JAEAは、放射線や復興状況の理解促進のために、研究成果や福島の早期復興への取り組みを情報発信するだけでなく、本意見交換会のような福島の現状を学ぶ機会を提供する活動をしていく。

---

\*Yukiko Kanari<sup>1</sup>, Yasuhiro Uezu<sup>1</sup>

1. Japan Atomic Energy Agency